氏名	松 浦 梅 春
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 5 8 号
学位授与の日付	昭和38年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**癌の化学療法に関する研究** 特に制癌剤並びに制癌強化剤の担癌生体内代謝に及ぼす影響に就いて
論文審査委員	教授 砂田輝武　教授 田中早苗　教授 山崎英正

学位論文内容要旨

癌の征覇は全人類の悲願である。しかも近年の麻酔，外科手術の向上，放射線治療の進歩にも拘らず，いぜんとして不治の疾患である。現今の制癌剤は，宿主体細胞への障害が強く，却って癌発育を促進せしめ死期を早めることが多い。特に肝機能障害のある場合によくみられる。

著者は従来の考え方より一歩前進して，宿主生体の代謝活性を促進し，その癌への抵抗力を増加し，その副作用を軽減し，癌化学療法への道を求めた。このため制癌強化剤として，核酸前駆物質を中心に2，3の肝機能亢進剤を選び，制癌剤と併用し，担癌生体内代謝を賦活促進し，癌への抵抗力を増強し，有効な結果を得た。特に動物実験で顕著な抗腫瘍性効果が得られ，さらに酵素，核酸，電解質，並びに血清蛋白代謝などについて，宿主体内代謝に及ぼす効果を検討し，これら体内代謝機能の賦活こそ癌化学療法において不可欠の要素であることを知った。

論文審査の結果の要旨

松浦梅春提出の「癌の化学療法に関する研究，特に制癌剤並びに制癌強化剤の担癌生体内代謝に及ぼす影響に就いて」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

現今の制癌剤は宿主生体細胞への障害が強く，却って癌発育を促進せしめ死期を早めることが少なくない。

特に肝機能障害のある場合によくみられる。このため著者はこのさい制癌強化剤を併用すれば，宿主生体の代謝活性を促進し，その癌への抵抗力を増加し，その副作用を軽減するのでないかと考え，実験的研究を行なった。

実験には純系マウスに Ehrlich 腹水癌を接種し，制癌剤としてマイトマイシンを制癌強化剤としてオロトン酸，グルクロン酸及びチオクト酸を用いた。その成績を要約すると，制癌剤及び制癌強化剤は担癌宿主における肝，腎カタラーゼ，コハク酸脱水素酵素活性度の低下を著明に抑制し，その併用により血清トランアミナーゼ活性度の上昇を改善し，著明な延命効果を認めた。又核酸代謝面では，制癌剤は腫瘍組織 DNA の代謝を阻害するが制癌強化剤はその DNA 代謝には殆んど変化を与えず，肝の RNA 代謝を亢進せしめるという新知見をえた。血清蛋白代謝，血清電解質代謝の面では，制癌剤，制癌強化剤の併用により血清アルブミン量の増加，担癌生体に減力の傾向にある血清カルシウム量の増加を認めた。すなわち本研究によって，癌化学療法として制癌剤の単独使用よりも制癌強化剤との併用の有効なることを認めた。しかも制癌強化剤は癌発育を助長しないことを証明した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。